

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸政策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。各キャンパスとも、設置学部の特長、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点にもとづき整備している。

- ①本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ②学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- ⑤大学構成員の意見を聞きながら支援施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティーの向上に努める。
- ⑥すべての施設のバリアフリー化を目指す等、身体障がい者にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

2008年度においては、深草学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備を行う。

- 経年劣化が著しい紫光館の空調設備を改修する。また、安全で快適な環境を整備するため体育館に空調設備を増設する。
- 紫朋館において、障がい者トイレの設置等バリアフリー改修工事を行う。
- 深草図書館の学修環境をより充実させるため、什器類リプレイス（3年目事業）のほか、入退館ゲートのリプレイスを行う。
- 学生総合支援及び教学支援体制を強化するため、事務室移転、バリアフリー化の促進をふまえた既存施設の改修を行う。
- その他、環境整備のため既存施設の改修、備品等の調達

を行う。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

2008年度においては、大宮学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、新棟建設及び既存施設の改修を中心に、次のとおり施設・設備・備品等の整備を行う。

- 大宮学舎の教育・研究及び学生厚生施設を整備・充実させるため、既に取得している近隣不動産跡地に、マルチメディア関連施設、研究室、談話室等を備えた新棟を建設する。（2009年3月竣工予定）
- 新棟に移転する南翼1階情報教育施設の跡地を演習室に、また、西翼別館の各研究施設の跡地を、研究室・会議室等に改修する。
- 臨床心理相談室の機能向上のため、西翼別館に備品を調達し、防音改修工事を行う。
- その他、キャンパスにおける動線の整備等、既存施設の改修を行う。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

2008年度においては、瀬田学舎のキャンパス環境をより一層向上させるため、次のとおり施設・設備・備品等の整備を行う。

- 瀬田学舎多目的グラウンドに設置されている陸上競技用全天候型ウレタンレーンに改修・増設する。
- 瀬田学舎バスターミナルのアスファルト舗装を改修する。
- RECホールの211教室と小ホールの視聴覚機器を更新する。
- 瀬田図書館の入退館ゲートを1機から2機へ増設・リプレイスを行う。
- 普通教室におけるマルチメディア教育環境の改善を進めるため、計画に従って整備する。
- 理工学部・理工学研究科の教育研究に使用される「安定同位体比質量分析システム」及び「リコンフィギュラブルメディア研究教育システム」を調達する。

4 その他の施設・設備・備品等の整備

2008年度においては、その他、主なものとして次のとおり施設・設備・備品等の整備を行う。

- 留学生寮（龍谷会館、大宮荘）の備品等のリプレイスを行い、留学生の住環境を整備する。
- 受動喫煙を低減し、禁煙意識の向上をはかるため、キャンパスに禁煙サインを設置する。
- 社会に開かれた大学の実現に向け、創立370周年記念事業の一つである「龍谷ミュージアム」の建設を着工する。

2 情報システム関係について

2008年度は、第4次長期計画事業の一つとして整備を進めている「ユビキタス教育環境整備事業」の継続・発展を目指す。

昨年度より稼働させたWeb系サービス（ポータル、シラバス、登録等）の機能向上を図り、利用者と大学を結ぶ情報コミュニケーション基盤整備を進める。また、eラーニングシステム（Moodle）やオンデマンド授業コンテンツサービス等、eラーニング環境の一層の充実とICT支援サービスの強化を図り、教育・研究における学内外のICT活用を促進する。著作権法との関わりでは、情報教育環境利用における著作権法との関わりを示すガイドラインを策定し、利用者向けの手引きを作成・周知すると共に、規程化を目指しさらに検討を進める。

あわせて、2009年度以降順次予定される各種情報システムリプレイスに向けては、セキュリティに配慮しつつ効果的・効率のかつコストパフォーマンスを考慮したシステム構築計画を策定する。

1 基幹ネットワークの整備

昨年度に引き続きユビキタス教育環境を整備するため、情報基盤整備の継続的な取り組みとして現在稼働している無線LANサービスのアクセスポイントを増設し利用エリアを拡大、ネットワーク利用の一層の促進と利用者の利便性の向上を図る一方、従来まで分かりにくかった利用方法を見直す。また、無線LANは学外者の利用需要が多いが、セキュリティ面で提供しづらかった環境をゲスト対応のための機器を導入し改善する。大宮学舎におけるネットワークを今後、新棟を含めより汎用的かつ拡張的にするため、ネットワーク機器類の再配置を実施する。一方、ウィルス、迷惑メールチェックサーバによるフィルタリングサービスの継続的な実施や精度の向上を図るなど、情報セキュリティの観点から運用の最適化を図る。

2 情報教育環境の整備

本年度は主に次の事業を実施する。

- ①教育改革への対応として、全学共通の情報教育リテラシー支援プログラムを継続して実施し、学生による情報教育リテラシー理解度の確認と向上に向けた円滑な授業運営を支援する。
- ②多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進と継続的な教育基盤整備を図るため、普通教室のマルチメディア教育環境の改善を2007年度より年次計画（4年間）を立て実施している。引き続き、事業の2年目として普通教室の整備を実施する。
- ③新しい教育方法への対応として、2007年度に自主学習支援のための「eラーニングシステム」、および授業映像配信のための「ストリーミングサーバ」を本格的に導入した。本年度から、情報教育の講義を行う各教員と連携し支援体制を整備することによりコンテンツの充実をはかり学生への学習支援を展開する。
- ④2007年度にLearning Crossroadsに学生・教員を対象とした教材作成等に係る人的支援などICT支援拡充に向けた機能を付加した。2008年度も継続的にICT支援を展開すると共に、将来のより充実した支援体制を整備するために教学部門とも連携し、eラーニング教材作成支援の方策を検討する。

3 事務システムの整備

2007年度より実施してきたWebサービスの充実を図る。ポータルサービスを中心に、学生・教員・職員を結ぶコミュニケーションネットワークの拡大を推し進めるとともに、携帯電話向けサービスの充実など、現代ニーズに沿った新たなサービスの展開などを行うことで、更なる利便性向上を図る。

Webサービスとの連携を行う基幹系システムについては、Webサービスをバックグラウンドで支える基盤として、堅牢で安定した管理・運営を維持しつつ、更なる利便性向上を視野に入れた次期基幹システム構築に向けての検討も併せて行っていく。